

# 1. 中央地区

## (1) 地区の概況

### ◆地区の構成

本市のほぼ中央部に位置し、いづろ・天文館地区を含む平坦部の市街地と臨海部の新港区、本港区の一部、鹿児島中央駅東口周辺から上之園町、上荒田町で構成されています。

### ◆人口

人口は、約4万2千人で増加傾向にあり、生産年齢人口比率は64.6%と全市で最も高く、平均世帯人員は1.6人と最も少ない状況です。

### ◆土地利用の状況

鹿児島中央駅周辺の鉄道施設や新港区、本港区の港湾用地などの「道路・交通施設用地」が最も多く、中心市街地やその周辺の「住宅用地」、鹿児島中央駅周辺からいづろ・天文館地区にかけて「商業用地」が分布しています。

## (2) 基本目標毎の現況と課題



### コンパクトで暮らしやすい都市

人口密度が非常に高く、商業・サービス・医療施設などの都市機能が集積した中心市街地を形成しており、買い物や医療施設などの利便性に対する満足度が非常に高い状況です。今後も、本市の中心拠点にふさわしい土地利用の誘導などによる活性化が必要です。



### 快適で移動しやすい都市

本市の主要な交通施設が整備され、交通環境に対する満足度が高い状況ですが、市内外からの交通が集中し、交通混雑が慢性化していることから、鹿児島東西幹線道路などの広域交通ネットワークの整備などによる交通混雑の緩和が必要です。



### にぎわいと活力のある都市

マンションの建設などにより、土地の高度利用が図られつつあり、中心となる地区の再整備・活性化が望まれていることから、今後も、にぎわい交流空間の創出や回遊性の向上を図ることが必要です。



### 安心・安全な都市

地区の大部分は、浸水の備えが必要であり、名山町の一部には、木造建築物が密集しています。また、地区全体としては、治安や雰囲気に関する満足度が低い状況です。このため、自然災害と暮らしの安全性に配慮した都市の形成が必要です。



### 自然・歴史・文化を生かした都市

加治屋まちの杜公園や緑化された市電軌道敷など、潤いのある都市空間の整備が進められていますが、公園緑地等の整備、街並み環境や景観の保全・形成が望まれていることから、今後も、景観や歴史・文化などを生かした都市空間の形成が必要です。

●中央地区のまちづくりの資源と主要課題図



序章  
都市マスタープランについて

第1章  
課題と方向性

第2章  
全体構想

第3章 地域別構想  
01. 中央地区

第4章  
構想推進のために

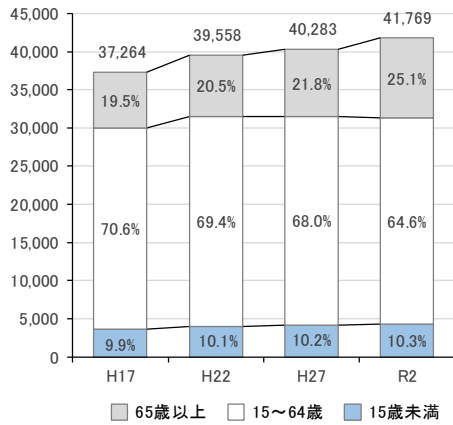
資料

【地区の資源】

自然	①市街地と一体となった貴重な河川空間・緑地である甲突川と河畔	
歴史 (史跡など)	②幕末の偉人を多数輩出した加治屋町	⑩市立病院
	③歴史を伝えるザビエル公園・ザビエル教会	⑪かごしま国際交流センター
	④中心市街地に隣接し、歴史性を持った空間である照国神社	⑫天文館図書館
	⑤歴史的な趣を残す石造倉庫群	⑬鹿兒島市長寿あんしん相談センター中央
		⑭東部親子つどいの広場(なかまっち)
まち並み ・景観	⑥鹿兒島中央駅から錦江湾、桜島方向へ伸びる景観軸にもなるナポリ通り・パース通り	⑮城南児童センター
		⑯歴史ロード維新ふるさと之道
		⑰甲突川沿岸緑地
公共施設等	⑦天文館公園	
	⑧みなと大通り公園	
	⑨共研公園	
	⑩維新ふるさと館	
	⑪mark MEIZAN (クリエイティブ産業創出拠点施設)	
その他	⑫勤労者交流センター	
	⑬観光交流センター	
	⑭上荒田の杜公園	
	⑮加治屋まちの杜公園	
	⑯南九州最大の繁華街である天文館の商店街	
	⑰港の活気や雰囲気味わえる魚類市場	
	⑱市民の生活を支え、観光資源にもなる市電	

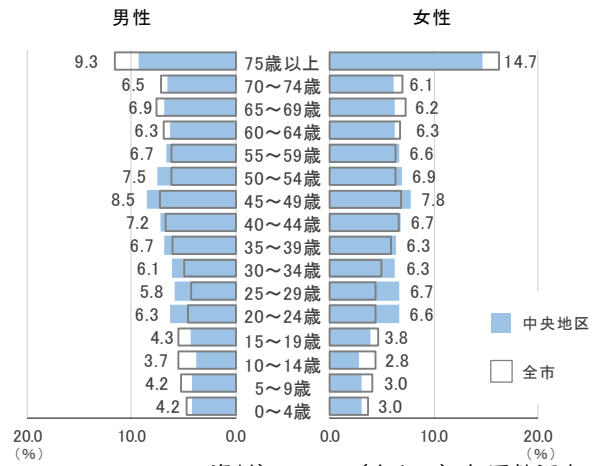
### 第3章 地域別構想

#### 人口と年齢構成の推移



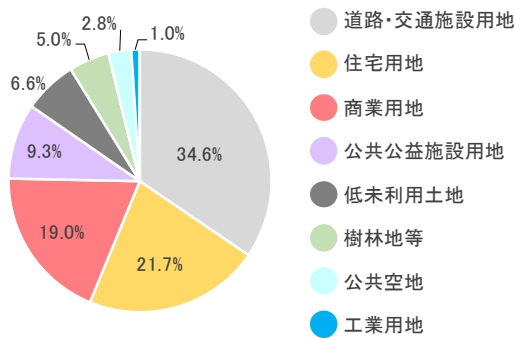
資料) 国勢調査

#### 人口年齢構成



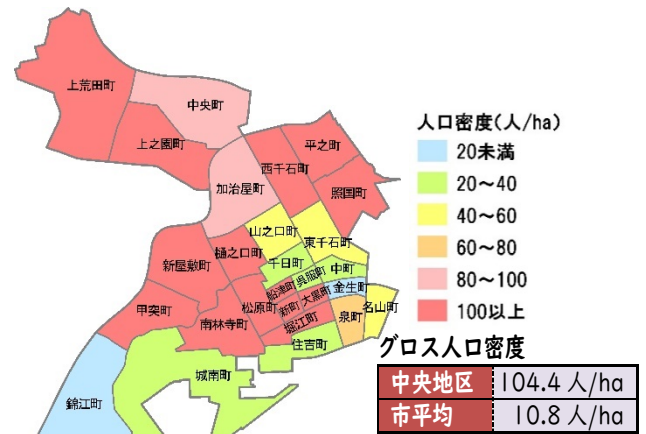
資料) 2020 (令和2) 年国勢調査

#### 土地利用面積の割合



資料) 2018 (平成30) 年度都市計画基礎調査

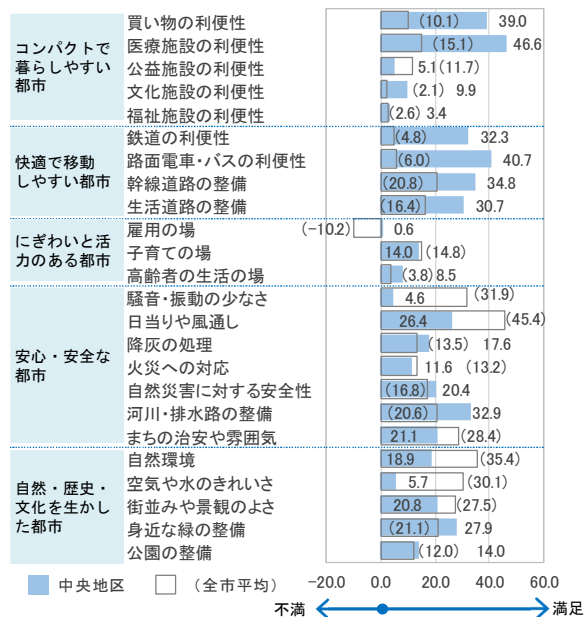
#### 町丁目別人口密度



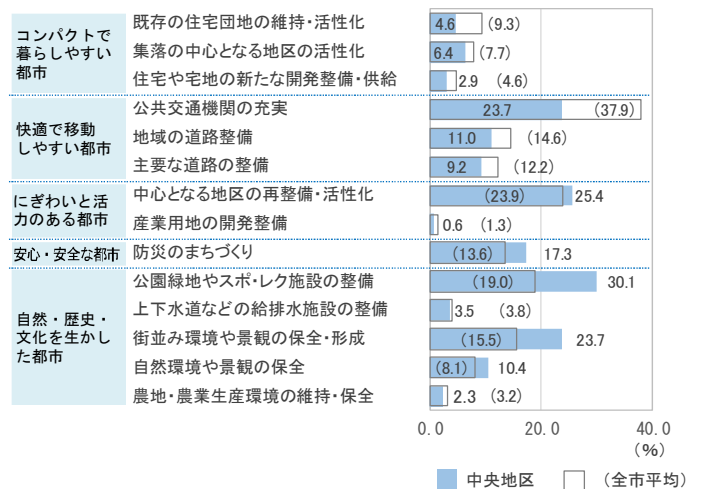
資料) 2020 (令和2) 年国勢調査

### 市民意識調査

#### 地区の評価



#### まちづくりの優先事項



資料) 2017 (平成29) 年市民意識調査

### (3) 地区のまちづくり構想



#### 中心市街地にふさわしい多様な都市機能の集積と都心居住の誘導

- 中心市街地では、高次都市機能や多様な都市機能の集積による拠点機能の強化を図ります。
- 利便性の高い立地を生かした都心居住の誘導を図ります。
- 空き店舗の有効活用などによるまちのにぎわい創出を図ります。



#### 鹿児島東西幹線道路の整備促進などによる交通の円滑化

- 鹿児島東西幹線道路の整備促進などによる道路交通網の強化を図ります。
- 交通結節機能の強化などによる公共交通の利用促進を図ります。
- 徒歩で円滑に移動できるようバリアフリーに配慮した交通環境の整備を図ります。
- 公共交通や自転車利用を促進するため、車中心から人中心への道路のあり方を検討します。



#### 県都の中心として広域的な拠点の形成と歩いて楽しい都市空間の創出

- 中心市街地では、県都の中心としての商業・サービス機能などの充実による広域的な拠点形成を図ります。
- 鹿児島中央駅周辺、いづろ・天文館地区、本港区を結ぶ都市軸の機能の充実を図ります。
- 中心市街地では、居心地がよく歩いて楽しい都市空間の創出を図ります。
- 新港区周辺では、産業・物流、港湾業務拠点としての機能の保持・増進を図ります。
- 加治屋まちの杜公園や甲突川沿岸の緑地などを活用したにぎわいと潤いが共存する都市空間の創出を図ります。



#### 自然災害に備えた中心市街地の形成

- 浸水への備えが必要な甲突川の流域では、総合的な治水対策を図ります。
- 緊急輸送道路を中心とした災害に強い交通ネットワークの形成を図ります。
- 商店街アーケードの整備促進など、降灰時でも安心して買い物ができる環境整備を図ります。
- 一時滞在施設や備蓄倉庫などを備えた施設の整備促進など、自然災害に備えた環境整備を図ります。













#### かごしまの景観や歴史文化を生かしたにぎわいと潤いが共存する都市空間の形成

- ナポリ通り・パース通りなどでは、シンボルロードとして景観軸の形成を図ります。
- 歴史的な資源を有する加治屋町などでは、ストーリー性のある歴史と文化の魅力を深める空間形成を図ります。
- 市電軌道敷緑化やフラワー・パートナーなどとの協働による緑化の推進などによる潤いある都市空間の形成を図ります。


(4) 地区の整備方針

◆整備方針（ゾーン毎）


■中心商業・サービスゾーン

- 土地の高度利用による広域的な拠点形成に向けて、特定用途誘導地区などの導入を検討します。
- 商業・サービス機能の充実などに向けて、再開発を促進します。
- 都心居住を誘導するため、総合設計制度などの活用を図ります。
- 沿道店舗のオープンスペースの提供や低層部のガラス張り、道路空間を活用したオープンカフェなどの設置を促進する方策を検討します。
- 個性的な街路空間の形成に向けて、地場産材を活用した歩道整備を図ります。
- 都市軸では、公共性の高い市街地再開発事業などへの支援を検討します。
- ナポリ通り・パース通りなどでは、景観軸にふさわしい都市空間の形成を図ります。
- にぎわいや憩える場の創出に向けて、甲突川沿岸緑地の利活用を検討します。
- 桜島の降灰に対応した商店街アーケードなどの整備を促進します。
- 名山町の木造建築物の密集地では、レトロな雰囲気を残しつつ、建築物の建替えを促進する方策を検討します。



■広域交流・業務ゾーン

- 本港区周辺では、いづろ・天文館地区などとの連携が図られた土地利用の誘導を図るとともに、住吉町周辺の低未利用土地の有効活用を検討します。




■地域商業・サービスゾーン

- 生活利便性を向上させる商業・サービス機能や都市型居住を誘導するため、特定用途誘導地区の導入や特別用途地区、地区計画などの活用を検討します。


■職住共生ゾーン

- 職住育近接型のまちづくりに向けて、働く場などの立地誘導を図ります。
- 上荒田町では、住宅と地場産業の工場などの共存した環境を維持するとともに、工場などの土地利用転換の進展状況を踏まえ、住居系用途地域への見直しを検討します。

■複合産業ゾーン

- 住宅と地場産業の工場などの共存した環境の維持及び居住環境に配慮した工場などの環境整備を促進します。
- 産業構造の変化に伴って生じた低未利用土地では、居住環境との調和を図りつつ、適正規模の集客施設などの立地を誘導するため、特別用途地区の活用を図ります。
- 臨港道路、鹿児島南北幹線道路、鹿児島東西幹線道路の整備に合わせた産業・物流、港湾業務拠点としての機能の保持・増進を図ります。

■自然環境保全・活用ゾーン

- 市街地に残された貴重な緑である斜面緑地を保全するため、緑地保全制度の活用を図ります。

◆整備方針図



◆整備方針（地区全体）



- ・公共空間を多様な用途に活用するための取組の検討
- ・空き家・空き地の民間資源の活用
- ・空き店舗の有効活用の検討



- ・鹿兒島東西幹線道路・鹿兒島南北幹線道路の整備促進
- ・交通混雑の著しい交差点改良の検討
- ・公共交通の結節機能の強化
- ・公共交通の利用促進措置に応じた駐車場などの附置義務軽減の検討
- ・民間開発と連携した公共交通や自転車などの利用促進措置の検討
- ・バリアフリー環境の整備推進
- ・自転車走行ネットワークの整備推進
- ・コミュニティサイクルの運営
- ・車中心から人中心への道路のあり方の検討
- ・エリアマネジメントの促進



- ・鹿兒島中央駅周辺の一体的まちづくりの推進
- ・いづろ・天文館地区のにぎわい拠点を生かした回遊性の向上
- ・天文館公園・加治屋まちの杜公園・甲突川沿岸緑地・上荒田の杜公園の活用
- ・甲突川の流域における治水対策の推進



- ・無電柱化の推進
- ・民間開発と連携した一時滞在施設や備蓄倉庫などを備えた施設の整備促進
- ・災害時の拠点や災害廃棄物の仮置場としての公共施設等の活用
- ・危険な空き家等の解体などの促進



- ・鹿兒島らしい夜間景観の形成と統一感のある都市サインの設置促進
- ・フラワー・パートナーなどとの協働による緑化の促進
- ・民間建築物などの屋上・壁面緑化の促進
- ・公園の再整備や安全対策の推進
- ・市電軌道敷緑化の維持・保全
- ・市街地における身近で貴重な河川空間の保全・活用

